

佐世保市教育委員会の自己点検及び評価について

外部評価者 山口 芳雄

1. はじめに

学校現場から離れて9年目になります。この間、社会教育指導員や学校評議員・教科書採択委員等を経験する中で、遠くからではありますが教育委員会の業務を見聞きさせていただきました。しかしそれはあくまで表面的なもので、外部評価をできる立場ではないと思いましたが、二学期制の導入などにも関わった者として、これは受けざるをえないのではないかと思います。

評価に当たっては、かつて教育委員会事務局で仕事をさせていただきながら、学んだことや反省したりしたことを思い出しながら平成29年度の教育委員会の活動を評価させていただきたいと思います。

(内部評価について)

西本教育長が就任2年目となり、様々な施策が展開された。内容は多岐にわたり、教育長及び教育委員、教育委員会事務局、教育機関が一体となって児童生徒の学習環境の改善・充実のため、学力向上対策やコミュニティスクール、トイレの様式化など確実な成果を残すために取り組んだ。地教行法の改正後は、教育長が会議を主催することとなり、事務局や教育機関との情報の共有が図られ、一層市民のニーズを汲んだ施策の実施に寄与するものとなったことは評価できる。詳細については後述する評価シートごとに具体的な記述を行うことにする。

2. 評価シート ① 「教育委員会の活動状況」

(1) 教育委員会の構成について

教育委員会の構成については、男女比・年齢構成・PTA関係者や地域関係者など幅広い人材で構成され、また委員としての識見も教育委員会の議事録にもあるように大所高所からの意見が、各委員から述べられ適正であると考えられる。また教育に対する深い関心や熱意が求められているが、自主判断での出席になっている研修等にも積極的に出席されていることから、そのことは十分感じとることができる。幅広い視点で議論されていることなど、現状の委員の構成は適正で評価できるものであると思う。

(2) 教育委員会会議の開催状況

平成29年度の教育委員会会議は、24回開催と前年度に比べ1回増で予定通り開催されたものである。1回あたりの委員の出席率も3.91人(H28 3.95人)であり、ほぼ全員の出席であったとみることができる。臨時教育委員会も極力前期教育委員会の開催に合わせる等効率化も図られている。さらに、案件によっては事前に資料を送付し

たり、前期教育委員会をテーマを持った勉強会とすることで、議論の活性化を図るなど、会議に深まりと各教育委員の識見を高めるなどの議事運営上の工夫がみられる。そのことが、各委員の出席率に結びついているように思う。

(3) 教育委員会会議の公表状況

平成 29 年度は遅滞なく議事録も公表されたことは評価される。また、1 月の定例教育委員会を西地区公民館で開催したことにより、地元の方を中心に傍聴者があった。前年度に比べ開催場所や時間の工夫がなされたことはよかったと思う。今後も、開かれた教育委員会を目指し、参加しやすい環境づくりに努め、市民の教育行政への関心を高めるよう望みたい。

(4) 行政等が主催する行事への出席状況について

平成 28 年度 118 回、平成 29 年度は 142 回の出席状況で、回数としては 24 回の増となっている。これは、行事については出席努力・自主判断の区分をしたことや、年間を見通した行事予定の提示が事務局からなされ、出席しやすかったためであると言える。今後も行事の精選が図られ、委員が選択しやすいような取組を事務局にはお願いしたい。また、前期教育委員会の研修も本市の主要施策等の認識を深めており、幼児まどか教室の視察も有意義なものであったと思われる。社会教育に関する施策も重要なものが多い。そういった点から、社会教育委員の会との意見交換会は意義深いものであると言えるが、「行政等主要行事一覧」には記載がない。「外部団体等との意見交換一覧」には、平成 28 年度に「社会教育委員との懇親会」との記載があるが、平成 29 年度にはないので、整理が必要だと感じた。

(5) 議会出席状況について

平成 27 年 8 月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、教育委員長という職がなくなり、教育委員は議会への出席の機会を失った。この件については今後評価する必要はないと考える。市議会との連携強化のためには、議会後の定例教育委員会で教育関連の質問要旨と答弁骨子について事務局から報告がなされており、議会の状況把握がなされているので問題ないと思う。

(6) 首長との連携

平成 27 年 4 月 1 日から総合教育会議という公の会議として主催され、平成 29 年度は 2 度の意見交換がなされている。教育委員も全員参加し、首長との意見交換によってお互いの教育に対する考えや課題意識の共有が図られ、大変有意義な場と言える。今後も定期的な開催を望む。

(7) 教育委員の自己研鑽について

平成29年度は学校図書ボランティアネットワークの研修会への定期的な参加と同時に図書館関係の研修が目についた。また、高等学校の講演会参加や、社会教育・芸術・スポーツ振興等教育全般にわたって延べ104名も参加し、研鑽を積んで教育委員としての識見を高めるとともに、地域との交流も深まっていると心強く思う。

(8) 学校訪問について

学校訪問は、教育行政の浸透ぶりを直接把握する機会であると同時に、学校経営の実情について意見交換・評価を行う教育委員の重要な職務である。このことから、平成29年度小学校6校、中学校6校計12校の学校訪問(A)出席努力に対し延べ41名(85.4%)の出席があった。さらに、本来出席努力としていない学校訪問(B)にも小学校13校16名、中学校2校3名、義務教育学校2校4名延べ23名もの出席があり所期の目的を十分果たしていると言える。

また、小中学校の研究発表や公開授業にも積極的な参加が認められる。

今後に向けては、特色ある学校の取組(地域との連携・学力向上の成果等)については、学校訪問Aとは別に教育委員が訪問したい学校を1校でも選定できれば、現状把握もより進むのではないかと考える。

(9) 教育に関する外部団体との意見交換について

佐世保市教育会、佐世保明るい社会づくり運動推進協議会、佐世保市PTA連合会等外部団体が主催する事業に延べ32名参加し、関係者と幅広く意見交換を行ったことは、教育委員としての識見を深めるとともに、連携も図られたと言える。気になった点は、各委員個別の外部団体との意見交換に記録されている数と、〈資料その1〉P18とではかなりの開きがあることである。これは、意見交換という点に絞って整理されたのではないかと推測するのだが。

3. 評価シート②「教育委員会が管理・執行する事務」

評価シート②は、「教育委員会が管理・執行する事務」14項目について活動指標の件数が示されており、事務件数としては28年度より11件減少している。1年間で160件と事務量は多いものの平成27年度以降24件の減少であり、事務の効率化等に向けた事務局の努力でもあると思う。また、教育委員会会議の開催前に資料を送付して説明に時間を要する案件は特に教育委員に議題について十分吟味してもらう方法を探ったりして、活発な議論が展開されるような工夫があったものと評価できる。

また、総合教育会議で、首長との意見交換時に予算編成に関して、教育委員会の

意見が反映できる時期に設定されたこともよかったと言える。

4. 評価シート ③「佐世保市が取り組む主要施策の成果」

(1) 学校の充実

○ 幼児教育の充実

成果指標 ① 幼稚園の就園率が99.5% ②幼児教育研修に対する幼稚園教諭・保育士の満足度も99.1%と二つともほぼ目標達成と言える。ただ施策を構成する事務事業の評価で、公立幼稚園管理運営事業の指標は公立幼稚園利用者の満足度は、92%となっている。微妙な差ではあるが、少しでも差が縮まることを望みたい。

今後も、幼児教育・保育全般に関する調査・研究の中枢を担う機関としての機能強化を図るとともに、特別支援教育や保幼小連携、幼児教育・保育の無償化についても取組を一層進められることを期待する。

○ 確かな学力の向上

成果指標の①学校の指導方針、特色ある教育活動に満足していると感じている児童生徒・保護者・地域住民の割合の目標値として85%を掲げて、実績が84.8%とほぼ目標は達成されている。次の成果指標②先生は子どもをよく理解し、授業が分かりやすいと感じている児童生徒・保護者・地域住民の割合についても、目標値の設定を85%に対して、実績値は82.3%である。これらの成果指標の分析として成果到達度は①99.8% ②96.8%となっており本市総合計画後期基本計画に沿ったものとなっている。今後とも確かな学力の向上を継続・推進してほしい。

○ 豊かな心を育む教育の充実

成果指標の①子どもたちが楽しく学校に通学していると感じている児童生徒・保護者・地域住民の割合は、実績値が85.7%となっている。教育委員会議事録には、「中学校は楽しい」との声が保護者の間では話題になるとのことである。小中間の認識の違いが平均化されての実績値と考えれば妥当ではないかと考える。成果指標の②いじめの解消率が100%となった背景には、「佐世保市いじめ防止基本方針」に示した取組の徹底、情報モラルに係る教育の推進による成果と言える。

○ 安全・安心な教育環境の確保

学校の安全性に満足している保護者や地域住民の割合の実績値が、84.1%であり前年度と同じである。小・中学校の耐震化工事が完了し、平成28年度から非構造部材の耐震化が実施されている状況である。多くの学校施設が築40年以上経過し、施設・設備の老朽化対策等、財源も限りがあるので計画的に実施することが必要である

また、就学援助の申請方法の見直しにより、児童生徒の就学援助認定者数が増加した

ことは評価される。今後は、校長の要望に保護者や地域の意向をより加味して、安全安心な教育環境の確保に努めることが必要だと考える。

○ 高等・専門教育の充実

成果指標①大学との連携事業実施数は 19 件と目標を上回った。また、②大学等における公開講座参加の延べ人数も 5086 人と目標を大きく上回っている。地域貢献、地域連携を促進し「知の拠点」としての大学の役割をさらに認識し充実発展させてほしい。奨学金については、一人親世帯の増加等借入ニーズが高まっているが滞納等については、引き続き適正な回収に努めてほしい。

(2) 青少年を心豊かに育むまちづくり

○ 青少年を育む教育コミュニティづくりの推進

成果指標の①放課後子ども教室に携わった大人の人数の実績は 104.05%となっている。子どもたちの様々な体験不足やコミュニケーション不足による生きる力の育成が求められている。「学校支援会議」や「放課後子どもプラン」により学校と地域の連携推進が図られていると評価できる。今後は「地域未来塾」も開設され、さらに学校・家庭と共に地域をあげた教育力向上が期待される。

○ 青少年の健全育成

健全育成事業への参加者数及び補導に従事した補導委員の延べ人数はともに、十分目標を達成し成果も上がったと思われる。これも意識ある大人、補導員の方々の協力の結果と言える。しかし、情報化社会の急速な進展によって、インターネットやスマホ等に起因する事件に子どもたちが巻き込まれる危険度はますます高くなっている。これまで以上に、各地域に組織された健全育成会、警察署等関係機関との連携強化を図って、事故防止、健全育成に努めてほしい。

(3) 生涯学習のまちづくり

○ 学習機会の充実

生涯学習事業への参加者数 94,391 人は、平成 22 年度からすると 15,081 人、昨年度からは 3,610 人の増となっている。これは、地区生涯学習推進会が実施する補助対象事業の参加者数の増が主となっており、地域のニーズに合った支援の成果だと思われる。

今後は、市内 27 地区に自治協議会が発足し地域コミュニティの活性化に取り組むことになったので、町内組織への未加入問題や地域行事への不参加問題等さらなる支援を期待したい。

○ 拠点施設による生涯学習の推進

社会教育施設（図書館・少年科学館・地区公民館利用者の合計）は152万人に迫り、市民の多様化するニーズへの取組の成果が出ていると思う。図書館の開館日数増をはじめ利用者の利便性向上を図ることや、各地区公民館等の主催講座の取組は評価できる。今後は、特に地区公民館の主催事業の充実を図り、生涯にわたる学びの「場」と「機会」を拡大してほしい。また、ケーブルテレビ等での紹介は、効果的なので取材に積極的に対応してほしい。

○ 徳育の推進事業の

一徳運動に取り組んでいる地域団体の数は、320で目標値370に対して86.5%となっている。全世帯に「徳育推進カレンダー」を配付したり、「広報させば」に徳育のコーナーがあったりと啓発活動は着実に進められている。しかし、大人や地域にはなかなか浸透していない現状がある。特に、世代間の道德観・ルールの認識の違いはなかなか大きいものと思われる。今後とも地道な運動推進を望みたい。

(4) スポーツに親しめる環境づくり

○ スポーツ機会の充実

施策の方向性として①総合型地域スポーツクラブの普及・支援②スポーツ大会の推進③地域におけるスポーツ活動の活性化となっている。①の成果指標は総合型地域スポーツクラブ会員数であり H29 年度は 2,051 人で達成度は 97.67%である。設立された9つのスポーツクラブの中には経営が厳しいクラブもあり、成果としてはほぼ妥当と言える。さらなる会員数増に向けた広報活動支援等が必要と言える。また、小柳賞佐世保シティロードレース大会をはじめ各種スポーツ大会は参加数も目標を上回っているし、ニュースポーツ普及講習会の参加者数も目標を上回っている。少子化の中でスポーツ少年団団員の増加が厳しい状況となっている。市民のニーズがどこにあるのかを見極めながら、事務事業の見直しも必要なのかもしれないと思う。

○ 学校体育の推進

学校体育の推進では、中学校の体力測定では目標を達成したが小学校の体力測定は達成度は88%と目標達成ができなかった。体育大会参加児童の満足度が97.8%とほぼ満足している。生涯に亘って運動に親しむ基礎を培うことになっていると言える。

○ 競技スポーツの振興

少子高齢化によって体育協会加盟競技人口が減少し、各種大会での入賞者は年によって増減がある。体育協会は、本市スポーツの普及・振興・競技力向上等を目的に設立され、本市のスポーツ振興の上では協力は不可欠であるが、補助金等見直しガイドラインに基づき適正化に努めてほしい。

○ スポーツ施設の充実

施設の年間利用者数は29年度1,142,525人 達成度96.99%であり、市内体育施設に多くの市民が健康づくりやスポーツに親しんだり、競技力を高めるために訪れていることが分かる。しかし、多くが築30年以上の老朽化した施設となっているので、計画的な施設改善を早急に進めてほしい。また、指定管理者・市直営・地元自治会による施設運営が限られた予算の中でなされており、施設運営方法の見直しや受益者負担の見直しが今後検討されていくものと考えられる。

(5) 人権が尊重され男女共同参画が実現する社会づくり

○ 人権に関する啓発・教育の推進

成果指標①人権問題に対する理解度は96.8%と目標を上回った。これは、人権啓発講演会や研修会、リーフレットの全世帯配布が実施されたこと、また市の広報紙への掲載や特設相談所設置への支援や地区公民館での主催講座等人権啓発が推進されたことによるものと評価できる。しかし、インターネットを利用した人権侵犯等が増加していることもあり、今後とも人権擁護委員協議会等関係機関と連携し、市民の人権意識の高揚を図ってほしい。

○ 学校における人権教育の推進

各学校では、児童生徒に対して人権週間を中心に「人権集会」を計画的に開催している。人権教育の充実度（学校評価）は99.06%であり、目標は達成されていると言える。また人権教育に対する理解度も96.9%となっており目標を上回っている。この成果を維持するため、今後も教職員研修をはじめ、人権教育に携わる指導者の研修を継続してほしい。

(6) 文化芸術に親しめる環境づくり

○ 市民文化の振興

成果指標①主要文化施設の利用者数が、平成28年度延べ68万6千人超えから平成29年度は606,263人に減少した。これは、平成28年度末に市民会館が閉館した影響を目標値に反映できなかったことによる。他の施設は微減か大幅増であることから成果指標の見直しにより目標達成も可となると思われる。市民が文化に触れる場の提供や文化芸術の環境づくりを支えるための支援・助成を通じて文化活動が活性化していると言える。今後は施設の老朽化対策を軌道に乗せてほしいと思う。

○ 歴史文化の保存・活用・継承

文化的景観や近代化遺産など文化財として扱われる対象が広がり、それらの調査・保護・活用が求められ、さらに、文化財を社会全体で保護・継承していくための啓発事業を通し

て、市民との協働の取組を推進する必要がある。本市の文化財を活用し、市民に対して効果的な情報提供を行うためにも説明板の設置は是非必要でありさらに計画的に進めてほしい。それが観光や産業にも貢献することになると思う。

5. おわりに

今回、外部評価をはじめてさせていただきました。「評価を評価する」というのは私にとりまして頭の痛いことで、何よりも、評価者の立場に立ちながら、なおかつそれを外からじっと見つめるというイメージが大変重いものでした。悔やんだり、悩んだりしながら、まず、教育委員会議事録を読ませてもらいました。そこでのやりとりは、教育長はじめ教育委員の方々の率直で、時には予想外の質問等もあり、真剣な議論がなされていることで、感動さえ覚えました。特に6月の定例教育委員会の中で、「心の状況調査」に関して合田委員さんが「中学校は毎日楽しくてしょうがないって、周りの子たちも言うんですよね。…」という発言がありました。「佐世保には中1ギャップは当てはまらない」というような発言にも驚きましたが、考えてみれば教育委員会・学校・保護者・地域がこれまで積み上げてきた様々な取組の成果と見れば納得がいくものでした。また、1月の定例教育委員会の中で、久田委員さんから「ついつい校長のリーダーシップとか教職員の指導力ということばかりに焦点を当てて考えがちだったが、教育委員会の指導力はどうかということ、今やっと、専任指導員とか学校司書とかプロジェクトチームを作ったらどうかということに目が向きだした。」との発言がありました。このことから、教育委員会としての指導の質の変化を知ることができました。手本が示せる指導力を持った教育委員会はすごいと思いますし心強いものです。そして、教育委員の方々の行事等の出席を見ました。各委員の出席回数も150回を超える委員さんもあり、たいへん厳しいなと感じました。自主判断の出席を複数で出席するなどして厳選したらどうだろうかなどと、思ったりもしました。さらに、佐世保市が取組む主要政策の成果を見ながら、これだけ多くの事業が実施されていることに、今さらながら感心しました。

これからの小中学校の統廃合や二学期制、学力向上対策、コミュニティスクールの動向など気になることもありますが、教育長を中心として教育委員の方々、教育委員会事務局、教育機関、そして保護者・地域がいっそう連携協力して、佐世保の教育の充実を推進していただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、外部評価者としての機会をいただき、たくさんの事を学ばせていただきました。感謝いたします。同時に的外れのことでも多々申し上げたことをお詫び申し上げます。佐世保市教育委員会のますますの発展をお祈りいたしたいと存じます。